平和を求め軍拡を許さない女たちの会
『Black Box Diaries』についての私たちの考えと要望

伊藤詩織氏が監督した『Black Box Diaries』は、女性に対する重大な性加害をドキュメンタリーとして世界に提示した、極めて重要な、社会を変える可能性をもつ作品であると、私たちは認識しています。

その基盤となったのは、伊藤詩織氏が彼女自身の性被害について声を上げたことでした。そのことで多くの女性が自らの問題として受け止め、日本における＃Me Too 運動の契機になりました。

しかしながら『Black Box Diaries』が世界に公開され、別の問題が浮かび上がってきました。伊藤詩織氏の性被害訴訟で代理人をつとめた弁護士たちが訴えたように、複数箇所で情報源の許諾を取らずに映像化されことが明らかになったのです。たとえば、事実上の内部公益通報者である極めて良心的な警察官の映像と音声や協力者であったタクシー運転者の映像と音声がそれらの人達の許諾なしに使われています。このような情報の使用は、日本においては通報者や協力者を追い詰める可能性があります。

ジャーナリストたちは今までも大きな事件を明らかにしました。ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペイパーズ、そして＃Me Too の怒涛を引き起こしたニューヨーク・タイムズの女性記者によるワインスタイン事件などです。これらの報道では記者たちが情報源を徹底的に守り、本人の許諾なしには記事に使わなかったのですが、それでも重要な問題を社会に明らかにしてきました。

情報源は「人間」です。社会に大きな影響を与えた調査報道において、取材者が情報源となる人々に寄り添い、人間同士の密接なコミュニケーションを丹念におこなったことが記録されてきました。その過程では、許諾してもらえないことも多々ありながらも、ジャーナリストたちは諦めず、工夫をしながら、報道をしてきました。

『Black Box Diaries』は、伊藤詩織氏への甚だしい人権侵害の記録です。それは極めて重要な意味をもちます。しかしその公開にあたって、伊藤詩織氏は情報源となる人々との丹念なコミュニケーションを怠り、結果的に人権侵害をおこなってしまった、と私たちは認識しています。許諾なしに防犯カメラ映像を使われたホテルも、今後は提供できない可能性を示しています。それは、類似の事件が起こった時に、真相解明が困難になり、被害

者が訴える手段を失うことです。

この作品は日本でもぜひ公開していただきたいです。それによって卑劣な性加害についての認識を多くの人にもって欲しいと私たちは思っています。

そのために、以下のことを伊藤詩織氏に要望します。

１　許諾を得ることにさらに努力し、それでも得られなかったシーンについては削除をすることで作品を再編集し、日本で公開可能な作品にしてください。

２　ジャーナリストとして批判を率直に受け止め、前述の問題に関する署名記事を書いた望月衣塑子記者への訴訟をただちに取り下げてください。

２０２５年2月１６日

平和を求め軍拡を許さない女たちの会

代　表　　田　中　　優　子